

CIGS エネルギー環境セミナー
「経営学からみた環境・エネルギー問題」

日 時	12月20日(火) 16:00 - 17:30
会 場	キャノングローバル戦略研究所 会議室3 (東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル11階)
講 師	青島 矢一 (一橋大学イノベーション研究センター教授)
モデレーター	芳川 恒志 (キャノングローバル戦略研究所 研究主幹)
言 語	日本語

開催趣旨

環境・エネルギー問題の解決は経済問題の解決との両立なしには実現できない。両者を両立させるには、環境・新エネルギー関連の新産業を創出するだけでなく、それらの新産業において企業が安定的に付加価値を創出できるシナリオが必要となる。これまで、環境エネルギー問題の解決という名目のもと、多大な公的支援が行われてきたが、それらの効果が限定的であったのは、そうしたシナリオが欠けていたからだと思われる。実際の企業経営、市場競争、技術開発の実態の理解に欠けた環境エネルギー政策は、経済性の増大や企業競争力の向上につながらず、結果、持続性をもたない。本講演では、主に再エネ政策の事例をもとに、このような視点を提供するとともに、経営学の観点から適切な環境・エネルギー政策のあり方を考える。

プログラム

16:00-16:05	趣旨説明 芳川 恒志
16:05-16:45	講 演 「経営学からみた環境・エネルギー問題」 青島 矢一
16:45-17:30	質疑応答と討論 モデレーター：芳川 恒志

講師紹介

一橋大学イノベーション研究センター教授。1996年マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程修了。Ph.D. (経営学)。一橋大学産業経営研究所専任講師、一橋大学イノベーション研究センター准教授を経て、2012年3月より現職。専門はイノベーションのマネジメント。これまで、イノベーション過程における資源動員の正当化プロセスや、技術・産業・企業能力の共進化メカニズムに注目して、デジタルカメラ産業、半導体産業、先端材料産業を含む様々な企業の事例分析を行ってきた。近年は、環境・エネルギー産業に焦点をあてて、エネルギー供給、GHG削減、産業競争力の両立の可能性を経営学的視点から研究している。主な著書は「ビジネス・アーキテクチャ：製品・組織・プロセスの戦略的設計」（共編著、有斐閣、2001）「競争戦略論」（共著、東洋経済新報社）「メイドインジャパンは終わるのか：奇跡と終焉の先にあるもの」（共編著、東洋経済新報社）「イノベーションの理由：資源動員の創造的正当化」（共著、有斐閣）ほか